

日中における社会的攻撃の国際比較の試み

成城大学大学院文学研究科
コミュニケーション学専攻

李 敏

問題関心

社会的攻撃性 social aggression という考え方は、2000年代に入ってアメリカを中心に活発に研究されるようになった概念であるが、近年、日本でも研究例が増加しつつある。ただし、アメリカにおける研究事例は、ほとんどが、アメリカ国内における社会的攻撃行動を問題としたものである。社会的攻撃行動におけるエスニシティの問題が検討されることもあるというが、それらは基本的に、「アメリカ（またはヨーロッパの）国内の教育施設などにおいて、複数の人種集団が混在している場合に、人種集団との関連で、社会的攻撃性を検討したものである。つまり、アメリカまたはヨーロッパの教育状況という枠組の内部での、社会的攻撃行動における人種性の問題が論じられているにすぎない。これらについては、代表的な研究レビューである Putallaz and Bierman (2004) や Underwood (2003) にも言及が見られる。

とはいえ、中国国内における社会的攻撃性の実態についての研究例は、ほとんど存在していないようだ。筆者は、中国において、社会的攻撃は存在しているのか、どういう事例が見られるのか、どの程度日本と類似しているのか、中国独自の特徴は見られるのか、などに関心を持っている。

国土の大きさ、人口数、社会的体制の相違によって、中国においては、日本などの場合とは別の形の社会的攻撃が生じているかもしれない。その実態はまだ全く把握されていない。

都市化や産業化の進行にしたがって、世界的に類似した現象がしばしば生じていることが知られている。つまり、中国においても、都市部では、日本の場合と同じような社会的攻撃行動が見られるかもしれない。

本論では、中国の大都市（北京）において、社会的攻撃の調査を実施し、以上の問題に一定の検討を加えたいと考えた。

方法

日本語版のアンケート作成に参加し、すでに作られていた日本のアンケート用紙を独自に中国語に翻訳した中国語版を作成した。中国在住の友人や知人にメールで依頼し、アンケート協力をお願いした。本調査の全体は、日中2カ国で実施されたが、日本では76通、中国では27通の回答を集めることができた。

調査期間

2011年9月26日～10月10日

調査結果

中国の都市部においても、あきらかに社会的攻撃が発生している。日中の類似しているところと相違しているところを分けてみることにする。また、とりわけ、ロザリンド・ワイズマンがその父母向け教育書の中で提出している攻撃者グループの役割分業に注目してみる。

同書の中では、

(1) しばしば成人や同級生の間では「人気者」とみられていて、その意味での権力を手にしているが、裏では自分の地位を維持するための社会的攻撃行動に余念がない「女王蜂」、

(2) しばしば「女王蜂」の親友であるかに見えるが、実質的には「女王蜂」に振り回されてもいる二番目の権力者「副官」、

(3) これら両名と同じほどに恐れられているが、一見しておとなしく目立たず、ただし、周囲の同級生の情報を握っていて、それを効果的に社会的攻撃行動に利用する「情報屋」、および

(4) 「女王蜂」や「副官」の言いなりになって、伝令やウワサの拡散に協力する「使い走り」、という典型的なガールワールドの役割類型が指摘されている。

1 日中の類似しているところ

単位：％ 括弧の中 回答者数（以下同）

表1-1 まとまった事件の発生時期

	日本	中国
1960年代	1.3 (1)	3.7 (1)
1970年代	3.9 (3)	0 (0)
1980年代	2.6 (2)	3.7 (1)
1990年代	21.1 (16)	11.1 (3)
2000年代	60.5 (46)	40.7 (11)
2010年代	10.5 (8)	37 (10)
NA	0 (0)	3.7 (1)

社会的攻撃事件の発生時期について、日本では60.5%の回答者が「2000年代」に発生していたに対して、中国では「2000年代」と「2010年代」をそれぞれ40%占めていたことがわかった。日中ともに70%以上の出来事がこの十年ほど前に起こったことである。回答者の偏りに起因する傾向の可能性がある。

表1-2 首謀者のグループには、いつも首謀者と一緒について、手助けをするような人がいたか？

	日本	中国
いた	72.4 (55)	63 (17)
いなかった	7.9 (6)	18.5 (5)
知らない、分からない	15.8 (12)	18.5 (5)
NA	3.9 (3)	0 (0)

日中ともに手助けする人が6割以上いた。この結果は、ワイズマンの副官についての指摘を支持しているようだ。

表1-3 手助けをする人は、その出来事に加担していたか？

	日本	中国
加担していた	67.1 (51)	51.9 (14)
加担していなかった	5.3 (4)	25.9 (7)
この出来事には加担していなかった (他には加担していた)	2.6 (2)	0 (0)
知らない、分からない	18.4 (14)	22.2 (6)
NA	6.6 (5)	0 (0)

日中ともに50%以上手助けをする人はその出来事に加担していた。

表1-4 その首謀者のグループには、首謀者たちの使い走りのような役目の人がいたか？

	日本	中国
いた	32.9 (25)	22.2 (6)
いなかった	31.6 (24)	37 (10)
知らない、分からない	25 (19)	40.7 (11)
NA	10.5 (8)	0 (0)

日本では、使い走りのような役目の人が3割ほどいて、中国では2割ほどいた。

表1-5 その使い走りの人は、その出来事に加担していたか？

	日本	中国
加担していた	35.5 (27)	22.2 (6)
加担していなかった	13.2 (10)	29.6 (8)
この出来事には加担していなかった (他には加担していた)	1.3 (1)	3.7 (1)
知らない、分からない	30.3 (23)	44.4 (12)
NA	19.7 (15)	0 (0)

日中ともに使い走りのような役目の人がいる2～3割にその出来事に加担していたことがわかった。

表1-6 首謀者グループが、今度は悪意を受ける立場に変わる、といった出来事があったか？

	日本	中国
あった	22.4 (17)	25.9 (7)
なかった	26.3 (20)	25.9 (7)
知らない、分からない	35.5 (27)	29.6 (8)
NA	15.8 (12)	18.5 (5)

日中ともにその首謀者グループが、何かのきっかけで、今度は悪意を受ける立場に変わるという割合が2割ほどあった。日中は顕著な差が見られなかった。

2 日中の相違しているところ

事件が起きた時回答者の年齢について、日本では「10代前半」が46.1%を占めているに対して、中国では、「10代後半」、「20代前半」、「20代後半」それぞれ20%ほどだった。日本では、20代の大学生の回答者が多かったため、こういう結果になったのだろう。

表 2 - 1 起きた時回答者の年齢

	日本	中国
～ 6 歳	0 (0)	0 (0)
～ 9 歳	0 (0)	0 (0)
10代前半 (10～14歳)	46.1 (35)	7.4 (2)
10代後半 (15～19歳)	7.9 (6)	25.9 (7)
20代前半 (20～24歳)	6.6 (5)	22.2 (6)
20代後半 (25～29歳)	3.9 (3)	25.9 (7)
30代前半 (30～34歳)	13.2 (10)	14.8 (4)
30代後半 (35～39歳)	11.8 (9)	3.7 (1)
40代前半 (40～44歳)	5.3 (4)	0 (0)
40代後半 (45～49歳)	2.6 (2)	0 (0)
50代	2.6 (2)	0 (0)
60代～	0 (0)	0 (0)

表 2 - 2 首謀者の年齢

	日本	中国
～ 6 歳	1.3 (1)	0 (0)
～ 9 歳	0 (0)	0 (0)
10代前半 (10～14歳)	48.7 (37)	7.4 (2)
10代後半 (15～19歳)	9.2 (7)	7.4 (2)
20代前半 (20～24歳)	3.9 (3)	22.2 (6)
20代後半 (25～29歳)	5.3 (4)	29.6 (8)
30代前半 (30～34歳)	7.9 (6)	11.1 (3)
30代後半 (35～39歳)	7.9 (6)	11.1 (3)
40代前半 (40～44歳)	5.3 (4)	3.7 (1)
40代後半 (45～49歳)	2.6 (2)	3.7 (1)
50代	5.3 (4)	3.7 (1)
60代～	2.6 (2)	0 (0)

首謀者の年齢について、日本では「10代前半」が48.7%であり、中国では、「20代前半」と「20代後半」それぞれ22.2%と29.6%を占めていることがわかった。日中ともに起きたとき回答者の年齢と首謀者の年齢は近いことがわかった。

標的の人の年齢も日本では、「10代前半」一番多く、51.3%を占めている。中国では、「20代前半」と「20代後半」それぞれ25.9%と33.3%をしめしている。

手助けをする人の年齢は、日本では「10代前半」が一番多く、44.7%になっているに対して、中国では、「20代前半」と「20代後半」が一番多く、それぞれ22.2%と25.9%であった。

表 2 - 3 標的の人の年齢

	日本	中国
～ 6 歳	1.3 (1)	0 (0)
～ 9 歳	2.6 (2)	0 (0)
10代前半 (10～14歳)	51.3 (39)	11.1 (3)
10代後半 (15～19歳)	7.9 (6)	11.1 (3)
20代前半 (20～24歳)	3.9 (3)	25.9 (7)
20代後半 (25～29歳)	3.9 (3)	33.3 (9)
30代前半 (30～34歳)	7.9 (6)	3.7 (1)
30代後半 (35～39歳)	11.8 (9)	7.4 (2)
40代前半 (40～44歳)	2.6 (2)	3.7 (1)
40代後半 (45～49歳)	2.6 (2)	3.7 (1)
50代	3.9 (3)	0 (0)
60代～	0 (0)	0 (0)

表 2 - 4 手助けをする人の年齢

	日本	中国
～ 6 歳	1.3 (1)	0 (0)
～ 9 歳	2.6 (2)	0 (0)
10代前半 (10～14歳)	44.7 (34)	11.1 (3)
10代後半 (15～19歳)	9.2 (7)	14.8 (4)
20代前半 (20～24歳)	5.3 (4)	22.2 (6)
20代後半 (25～29歳)	2.6 (2)	25.9 (7)
30代前半 (30～34歳)	5.3 (4)	14.8 (4)
30代後半 (35～39歳)	7.9 (6)	3.7 (1)
40代前半 (40～44歳)	1.3 (1)	3.7 (1)
40代後半 (45～49歳)	1.3 (1)	3.7 (1)
50代	2.6 (2)	0 (0)
60代～	1.3 (1)	0 (0)
NA	14.5 (11)	0 (0)

デマを流す人の年齢は日本で、「10代前半」の回答が一番多く、27.6%になっている。中国では、「20代前半」と「20代後半」はそれぞれ18.5%と25.9%になっている。

使い走りの人の年齢は日本では「10代前半」が一番多く、23.7%になっている。中国では、「20代前半」と「20代後半」が多く、同じく18.5%になっている。

こちらも事件起こった時回答者の年齢と首謀者の年齢と手助けをする人の年齢、デマを流す人の年齢類似した結果である。表 2 - 1 から表 2 - 6 を見ても、つまり、年齢が近い人の間に社会的攻撃がよく起こっていることがわ

表 2 - 5 デマを流す人の年齢

	日本	中国
～ 6 歳	2.6 (2)	3.7 (1)
～ 9 歳	1.3 (1)	0 (0)
10代前半 (10～14歳)	27.6 (21)	7.4 (2)
10代後半 (15～19歳)	7.9 (6)	3.7 (1)
20代前半 (20～24歳)	2.6 (2)	18.5 (5)
20代後半 (25～29歳)	5.3 (4)	25.9 (7)
30代前半 (30～34歳)	5.3 (4)	7.4 (2)
30代後半 (35～39歳)	7.9 (6)	11.1 (3)
40代前半 (40～44歳)	0 (0)	3.7 (1)
40代後半 (45～49歳)	0 (0)	3.7 (1)
50代	0 (0)	0 (0)
60代～	3.9 (3)	3.7 (1)
NA	35.5 (27)	11.1 (3)

表 2 - 6 使い走りの人の年齢

	日本	中国
～ 6 歳	2.6 (2)	0 (0)
～ 9 歳	2.6 (2)	0 (0)
10代前半 (10～14歳)	23.7 (18)	11.1 (3)
10代後半 (15～19歳)	5.3 (4)	14.8 (4)
20代前半 (20～24歳)	3.9 (3)	18.5 (5)
20代後半 (25～29歳)	5.3 (4)	18.5 (5)
30代前半 (30～34歳)	3.9 (3)	11.1 (3)
30代後半 (35～39歳)	6.6 (5)	7.4 (2)
40代前半 (40～44歳)	1.3 (1)	7.4 (2)
40代後半 (45～49歳)	0 (0)	0 (0)
50代	2.6 (2)	0 (0)
60代～	1.3 (1)	0 (0)
NA	40.8 (31)	11.1 (3)

かった。

出来事的首謀者は日本では73.7%は回答者自身の直接の友人知人に対して、中国では、40.7%だった。日本の方が、いっそう身近な人に発生しているケースが多く報告されたことがわかった。

表2-7 出来事的首謀者は、回答者自身に近い人か？

	日本	中国
自分自身	7.9 (6)	11.1 (3)
自分の直接の友人知人	73.7 (56)	40.7 (11)
自分のあまり近くない知り合いなど	13.2 (10)	22.2 (6)
自分には無関係な人	5.3 (4)	18.5 (5)
NA	0 (0)	7.4 (2)

表2-8 首謀者の性別

	日本	中国
男性	42.1 (32)	48.1 (13)
女性	56.6 (43)	37 (10)
知らない、分からない	0 (0)	14.8 (4)
NA	1.3 (1)	0 (0)

首謀者の性別は、日本の女性の割合は中国より20%ほど多いことがわかった。中国では、「知らない、分からない」回答が15%近く存在していた。

表2-9 首謀者の特徴

	日本	中国
人気者	64.5 (49)	11.1 (3)
特に目立たない人	15.8 (12)	22.2 (6)
うまく適応できてない感じの人	13.2 (10)	29.6 (8)
よく知らない人	3.9 (3)	37 (10)
NA	2.6 (2)	0 (0)

首謀者の特徴は日本では「人気者」が64.5%である。日本のほうが、ワイズマンのいう「女王蜂＝関係攻撃する人」の理論を、いっそう支持しているようだ。中国では、「人気者」が11.1%だった。「うまく適応できてない感じの人」の回答は30%弱であった。

表2-10 標的の人の性別

	日本	中国
男性	28.9 (22)	44.4 (12)
女性	68.4 (52)	48.1 (13)
知らない、分からない	0 (0)	7.4 (2)
NA	2.6 (2)	0 (0)

日本では、標的の人では、女性が圧倒的に男性よりも多いことがわかった。

一方、中国では、両者はほぼ同じ割合である。

表 2 - 11 標的の人の特徴

	日本	中国
人気者	40.8 (31)	29.6 (8)
特に目立たない人	30.3 (23)	29.6 (8)
うまく適応できてない感じの人	21.1 (16)	25.9 (7)
よく知らない人	5.3 (4)	14.8 (4)
NA	2.6 (2)	0 (0)

標的の人の特徴について、日本では、「人気者」の回答が一番多く、40.8%だったが、中国では「人気者」、「特に目立たない人」、「うまく適応できてない感じの人」の回答はそれぞれ30%ほどであったため、目立つ特徴が見られなかったが、日中の「特に目立たない人」と「うまく適応できてない感じの人」の回答を合わせると、50%を超えている。ワイズマンの標的の人の特徴に支持しているといえよう。ただしワイズマンは、首謀者・標的ともに「人気者」である場合があることも指摘してはいる。

表 2 - 12 そのデマを流す人は、その出来事に加担していたか？

	日本	中国
加担していた	35.5 (27)	22.2 (6)
加担していなかった	6.6 (5)	44.4 (12)
この出来事には加担していなかった (他には加担していた)	1.3 (1)	0 (0)
知らない、分からない	40.8 (31)	33.3 (9)
NA	15.8 (12)	0 (0)

デマを流す人は、その出来事に加担していたかについて、日本では「加担していた」の回答は35.5%、中国では、「加担していなかった」の回答は44.4%、大きな差が見られた。

表 2 - 13と表 2 - 14 を見てみると、出来事の情報入手ルートについて、日本では52.6%の回答者が「自分自身が直接に見聞きした」に対して、中国では40.7%の回答者は「自分自身が事件の関係者から聞いた」と答えた。日中ともに30%ほどにデマを流す人がいたが、「言い伝えやウワサなどで聞いた」と答えた回答者は日中それぞれ9.2%と7.4%、少なかった。

表2-13 出来事の情報入手ルート

	日本	中国
自分自身が直接に体験した	28.9 (22)	18.5 (5)
自分自身が直接に見聞きした	52.6 (40)	22.2 (6)
自分自身が事件の関係者から聞いた	6.6 (5)	40.7 (11)
言い伝えやウワサなどで聞いた	9.2 (7)	7.4 (2)
新聞やテレビなどで見聞きした	0 (0)	3.7 (1)
インターネットで見聞きした	0 (0)	7.4 (2)
NA	2.6 (2)	0 (0)

表2-14 その首謀者のグループには、他人の情報を集めて、時機をみはからってデマを流す人がいたか？

	日本	中国
いた	39.5 (30)	29.6 (8)
いなかった	22.4 (17)	22.2 (6)
知らない、分からない	32.9 (25)	44.4 (12)
NA	5.3 (4)	3.7 (1)

表2-15 主に起きた場所

	日本	中国
家庭内	1.3 (1)	11.1 (3)
学校内や学校同士	69.7 (53)	37 (10)
学校や職場の寮や社宅など	19.7 (15)	29.6 (8)
ご近所の町内	2.6 (2)	11.1 (3)
クラブやサークル	3.9 (3)	3.7 (1)
スポーツなどの練習場や競技場	0 (0)	7.4 (2)
旅行先や国内外の出張先・赴任先	1.3 (1)	7.4 (2)
NA	1.3 (1)	0 (0)

日本では「学校内や学校同士」の回答は中国の2倍近くになっている。それに続く、日中とも「学校や職場の寮や社宅など」多く発生していることがわかった。中国では「家庭内」や「ご近所の町内」でも、圧倒的に日本より多く発生していることが推測される。

出来事の続く期間について、日本では、「数ヶ月」は35.5%、「1～3年間」は39.5%に対して、中国では、「1日から数日」は40.7%、「数週間」29.6%だった。つまり、中国より日本のほうが長期間化の傾向が見られた。続く期間において、中国より日本のほうが深刻になっている。

表2-16 出来事の続く期間

	日本	中国
1日から数日	2.6 (2)	40.7 (11)
数週間	13.2 (10)	29.6 (8)
数ヶ月	35.5 (27)	14.8 (4)
1～3年間	39.5 (30)	7.4 (2)
3年間以上	9.2 (7)	7.4 (2)

表2-17 よく使われていた手口

	日本	中国
1. 標的がいない時に、かげ口を言う	18.4 (14)	19.6 (5)
2. 標的の悪いウワサを流す	13.1 (10)	14.8 (4)
3. 標的がいても、黙殺や無視する	14.9 (11)	18.5 (5)
4. 的を仲間に入れない	17.1 (13)	3.7 (1)
5. 標的をみんなの行事などにさそわない	7.8 (6)	8.5 (2)
6. 悪口をブログやノートに書く	2.2 (2)	3.7 (1)
7. 標的が不快になるほど計画的にからかう	10.5 (8)	3.7 (1)
8. 肉体的な暴力を与える	3.9 (3)	4.8 (1)
9. あからさまな脅しをする	4.9 (4)	6.3 (2)
10. 金品をとる、こわす	2.2 (2)	6.3 (2)
NA	4.9 (4)	10 (3)

こちらはよく使われていた手口その1からその3までの三問を合計した点数を平均した数値になる。小数点の後2位、四捨五入している。

よく使われていた手口について、「標的を仲間に入れない」は日本では17.1%に対して、中国では3.7%だった。「標的が不快になるほど計画的にからかう」は日本では10.5%に対して、中国は3.7%だった。「金品をとる、こわす」の項目は中国のほうはやや多いことがわかった。

それ以外の項目顕著な差が見られなかった。日中の類似性が高いことがわかった。つまり、日中ともに肉体的、物理的な攻撃より「標的がいない時に、かげ口を言う」、「標的の悪いウワサを流す」、「標的がいても、黙殺や無視する」のほうが多い。日中のサンプルでは、この三つの項目の合計が約半分を占めている。この結果からも社会的攻撃の特徴に一致している。

首謀者のグループの人数について、類似しているのは日中ともに「2～3名」の答えは40%である。相異しているのは日本では「4～5名」、「6～9名」、「10名以上」の合計は44.7%に対して、中国では、14.8%だった。日本では「首謀者1名だけ」が13.2%に対して、中国では40.7%だった。つまり、中

表 2 - 18 首謀者のグループの人数

	日本	中国
首謀者 1 名だけ	13.2 (10)	40.7 (11)
2 ~ 3 名	39.5 (30)	40.7 (11)
4 ~ 5 名	25 (19)	14.8 (4)
6 ~ 9 名	10.5 (8)	0 (0)
10 名以上	9.2 (7)	0 (0)
NA	2.6 (2)	3.7 (1)

表 2 - 19 その出来事の標的（悲しい思いをした人）は、あなた自身に近い人でしたか？

	日本	中国
自分自身	26.3 (20)	14.8 (4)
自分の直接の友人知人	52.6 (40)	55.6 (15)
自分のあまり近くない知り合いなど	21.1 (16)	11.1 (3)
自分には無関係な人	0 (0)	14.8 (4)
NA	0 (0)	3.7 (1)

国に比較すると、日本のほうの首謀者グループが多数傾向が見られる。

出来事の標的は日本では、「自分自身」の回答は中国の 2 倍になっている。このことから、社会的攻撃は、日本のほうがもっと切実で、実際に自分自身に対して発生している問題だとも推測できる。両国サンプルとも、「自分の直接の友人知人」が 50% を超えている。

考察

日中の類似しているところは、社会的攻撃事件の発生時期、手助けする人がいる割合、手助けをする人はその出来事に加担していた割合である。

日中では、2 ~ 3 割使い走りのような役目の人がいた。その人たちが 2 ~ 3 割その出来事の役割に加担していたことがわかった。

日中ともにその首謀者グループが、何かのきっかけで、今度は悪意を受ける立場に変わるといった割合が 2 割ほどあった。日中は顕著な差がみられなかった。

一方、日中相違するところが多く見られた。事件関係者の年齢（首謀者、標的の人、手助けをする人、デマを流す人、使い走りの人）、首謀者や標的の人の特徴、起きた場所、続く期間、主な手口などに顕著な差異が見られた。年齢が近い人の間に社会的攻撃がよく起こっている。日本の首謀者の特徴と中国の

標的の人の特徴はワイズマンの理論に支持している。起きる場所について、日本では「学校内や学校同士」に一番起きている。中国では「家庭内」や「ご近所の町内」も圧倒的に日本より多く発生している。出来事の続く期間について、中国より日本のほうが長期間化の傾向が見られた。これらは注目すべき点といえよう。

まとめと今後の課題

事実として、中国都市部に社会的攻撃の実例はあった。今回北京の一地域の小人数の調査だったため、地域差や年齢の差も考えられる。今後はほかの地域や幅広い年齢層に調査することが必要だろう。中国では近年目覚ましい経済発展がつづき、今までの価値観なども大きく変化している。今後も社会的攻撃が流行ることや増えることがいえるだろう。欧米系に限らず、中国においてもこういう研究を深める必要があるだろう。

なお、本研究は、成城大学大学院コミュニケーション学専攻後藤将之研究室が2011年に実施した社会的攻撃性の研究の一環として実施された社会調査に基づき、筆者がその調査結果を独自に分析したものである。

参考文献（英語文献はゼミ教員の指導により利用）

深谷和子 『「いじめ世界」の子どもたち—教室の深淵』、金子書房、1996.

後藤将之 「社会的攻撃性のシンボリック相互作用論的研究」、『コミュニケーション概要』、成城大学大学院、2012.

森田洋司 『いじめの国際比較研究 日本 イギリス オランダ ノルウェーの調査分析』、金子書房、2001.

Putallaz, M. and Bierman, K. L., (eds.), *Aggression, Antisocial Behavior, and Violence among Girls: A Developmental Perspective*, Guilford, 2004.

Underwood, M. K., *Social Aggression among Girls*, Guilford, 2003.

Wiseman, R., *Queen Bees and Wannabes: Helping Your Daughter Survive Cliques, Gossip, Boyfriends & Other Realities of Adolescence*, Three Rivers Press, 2002.

資料1 ウェブページ調査用フォーマット（日本語版）の一部
 （ここに掲載したページと同様の約30問の中国語の選択肢質問からなる）

いじめや日常生活での悪意についての実態調査



いじめや日常生活での悪意についてのウェブ実態調査

実施：成城大学大学院文学研究科 後藤将之研究室

成城大学の教員紹介ページ：後藤将之 <http://www.seijo.ac.jp/graduate/gslit/orig/staff/goto.html>

■■■■このウェブページへのアクセス、どうもありがとうございます。■■■■

日ごろの対人関係で、悪意のある扱いをされた経験をお持ちの方は、とても多いです。それは、あいまいで、なかなか言葉に出せない話題のため、傷ついたまま、黙ったままの方も、たくさんおられます。

このアンケートでは、みなさんのお知り合いやみなさんの、そうした苦しい経験の実態を、個人名は全て匿名または仮名で、お教えてください。調査のシステムにより、回答者の匿名性は、確実に保証されています。この調査は、成城大学の大学院 後藤研究室が、このような対人コミュニケーション問題の研究と予防のために、大学院生と協力して実施しています。

以下の質問に、選択肢で答えていただき、最後にいちばん下にある「送信」ボタンを一度クリックしていただくと、そこまでの回答結果が、当研究室の受信専用アドレスへ送られます。発信元の情報は、こちらでは何も分からないようになっています。どうか安心して、ご協力ください。

ご回答の受付期間は、2011年9月30日までです。

下記のフォームにご記入の上、最後の「送信」ボタンを1度だけクリックしてください。送信されるのは、下記で選択・記入いただいた内容だけです。

質問中、「出来事」とは、「誰かが悪意のある扱いを受けた、まとまった1つの事件」という意味です。些細な出来事でも、傷ついた人がいた出来事ならば、対象になります。また、複数の出来事をご存知の方は、恐縮ですが、よろしければ、1回答=1出来事として、それぞれ記入し送信してください。なお、*マークが末尾についた質問はすべてご回答ください。

Q1-1 誰かがいじめや悪意のある扱いを受けた、まとまった事件についてうかがいます。それは主としていつ頃に起きた出来事でしたか？*

ここから選んでください ↓

Q1-2 それが起こった時、あなた自身の年齢はいくつくらいでしたか？*

ここから選んでください ↓

Q2-1 その出来事的首謀者は、あなた自身に近い人でしたか？*

ここから選んでください ↓

Q2-2 その出来事的首謀者の年齢は、その時いくつくらいでしたか？*

ここから選んでください ↓

Q2-3 その出来事的首謀者の性別は？*

ここから選んでください ↓

Q2-4 その出来事的首謀者は、しいて次の中から選ぶなら、どんな人でしたか？*

ここから選んでください ↓

Q3-1 その出来事の標的（悲しい思いをした人）は、あなた自身に近い人でしたか？*

ここから選んでください ↓

資料2 中国語版のウェブ調査質問票

关于欺负人和日常生活中的恶意的网上实情调查

调查人：成城大学大学院文学研究科后藤将之研究室

成城大学的教师介绍的网址：

后藤将之 <http://www.seijo.ac.jp/graduate/gslit/orig/staff/goto.html>

■■■■ 感谢您来到本调查的网页。■■■■

在日常的人际交往中、很多人都有过受到恶意对待的经历。因为这种话题一般比较隐晦、很难讲出来、所有很多人即使感到受到伤害、也会保持沉默。

在本次调查中、请您写出自身的或者熟人的这种痛苦的经历（请个人名字全部用匿名或假名）。由于网上调查的系统原因、可以确实地保证回答人的匿名性。

本调查意在研究如何防止上述人际交往问题、由日本成城大学大学院后藤研究室组织、大学院生的协助实施本调查。

请从选项中选择回答以下的问题。单击最下面的「送信」、您的回答就会传送到本研究室受信专用信箱。我们完全不知道送信人的个人信息。请放心、谢谢合作。

下面的框里记述完毕后、最后请单击「送信」键。下列只有被选择的选项和自由记述内容被自动送信。问题中、「事件」是指「有人受到恶意的对待、有条理的一个事件」。即使是一些小事、有人受到伤害也算。如果您知道几件的话、请把1回答=1事件、分别送信。请务必回答末尾有*记号的问题。

Q1-1 有人受到欺负、向您询问整桩事件。那件事是什么时候发生的？*

1. 1960年代
2. 1970年代
3. 1980年代
4. 1990年代
5. 2000年代
6. 2010年代

Q1-2 这件事发生时、您的年龄？*

1. ~6岁
2. ~9岁
3. 10代前半（10~14岁）
4. 10代后半（15~19岁）

5. 20代前半 (20~24岁)
6. 20代后半 (25~29岁)
7. 30代前半 (30~34岁)
8. 30代后半 (35~39岁)
9. 40代前半 (40~44岁)
10. 40代后半 (45~49岁)
11. 50~59岁
12. 60岁及以上

Q2-1 这件事的主谋是您身边的人吗? *

1. 我自己
2. 我身边的朋友或熟人
3. 我不怎么熟悉的认识人等
4. 跟我没关系的人

Q2-2 这件事的主谋那时的年龄? *

1. ~6岁
2. ~9岁
3. 10代前半 (10~14岁)
4. 10代后半 (15~19岁)
5. 20代前半 (20~24岁)
6. 20代后半 (25~29岁)
7. 30代前半 (30~34岁)
8. 30代后半 (35~39岁)
9. 40代前半 (40~44岁)
10. 40代后半 (45~49岁)
11. 50~59岁
12. 60岁及以上

Q2-3 这件事的主谋的性别 *

1. 男
2. 女
3. 不知道

Q2-4 如果一定要描述一下这件事的主谋、他(她)符合下述哪一项? *

1. 受欢迎的人
2. 不怎么引人注目的人
3. 不能很好的适应环境的人

4. 对这个人不了解

Q3-1 这件事的当事人（感到悲伤地人）是您身边的人吗？*

1. 我自己
2. 我身边的朋友或熟人
3. 我不怎么熟悉的认识人等
4. 跟我没关系的人

Q3-2 这件事的当事人当时的年龄？*

1. ~ 6 岁
2. ~ 9 岁
3. 10代前半（10~14岁）
4. 10代后半（15~19岁）
5. 20代前半（20~24岁）
6. 20代后半（25~29岁）
7. 30代前半（30~34岁）
8. 30代后半（35~39岁）
9. 40代前半（40~44岁）
10. 40代后半（45~49岁）
11. 50~59岁
12. 60岁及以上

Q3-3 这件事当事人的性别？*

1. 男
2. 女
3. 不知道

Q3-4 如果一定要描述一下这个当事人、他（她）符合下述哪一项？*

1. 受欢迎的人
2. 不怎么引人注目的人
3. 不能很好的适应环境的人
4. 对这个人不了解

Q5 关于这件事您是怎么知道的？*

1. 我自己的亲身经历
2. 我自己亲眼看到的
3. 我自己从事件的关联人物那里听到的
4. 道听途说或流言蜚语

5. 通过报纸或电视等
6. 网上

Q6 这件事主要发生的地点? *

1. 家里
2. 自己学校或其他学校
3. 学校或单位的宿舍等
4. 街坊四邻
5. 课外活动小组或公司外兴趣团体
6. 体育运动练习场所或比赛场馆
7. 旅行地或国内外的出差地、赴任地

Q7 这件事持续了多长时间? *

1. 1 天或几天
2. 几周
3. 几个月
4. 1 ~ 3 年
5. 3 年以上

Q8-1 请选 3 个这件事中经常使用的手段、之一 *

- 1 当事人不在时、说他（她）的坏话
2. 散布当事人不好的流言
- 3 当事人在也无视或置之不理
4. 当事人在也不让其入伙
5. 不邀请当事人参加大家的活动
6. 在博客或笔记中写坏话
7. 有计划地开让当事人不愉快的玩笑
8. 使其受肉体上的暴力
9. 露骨地威胁
10. 获取或损坏金钱贵重物品

Q8-2 请选 3 个这件事中经常用的手段、之二 *

请选上面的 Q8-1 以外的选项

1. 当事人不在时、说他（她）的坏话
2. 散布当事人不好的流言
3. 当事人在也无视或置之不理
4. 当事人在也不让其入伙
5. 不邀请当事人参加大家的活动

6. 在博客或笔记中写坏话
7. 有计划地开让当事人不愉快的玩笑
8. 使其受肉体上的暴力
9. 露骨地威胁
10. 获取或损坏金钱贵重物品

Q8-3 请选3个这件事中经常用的手段、之三 *

请选择上面的 Q8-1和 Q8-2以外的选项

- 1 当事人不在时、说他（她）的坏话
2. 散布当事人不好的流言
3. 当事人在也无视或置之不理
4. 当事人在也不让其入伙
5. 不邀请当事人参加大家的活动
6. 在博客或笔记中写坏话
7. 有计划地开让当事人不愉快的玩笑
8. 使其受肉体上的暴力
9. 露骨地威胁
10. 获取或损坏金钱贵重物品

Q9 主谋的集团中、有几个人？ *

1. 只有1名主谋
2. 2～3名
3. 4～5名
4. 6～9名
5. 10名以上

Q10-1 在主谋的集团中、有总是和主谋在一起、帮他（她）的人吗？

1. 有
2. 没有
3. 不知道

Q10-2 那个帮忙的人、参与这件事了吗？ *

1. 参与了
2. 没参与
3. 没参与这件事（参与其他的事了）
4. 不知道

Q10-3 帮忙的人的性别？*

1. 男
2. 女
3. 不知道

Q10-4 帮忙的人当时的年龄？*

1. ~ 6 岁
2. ~ 9 岁
3. 10代前半 (10~14岁)
4. 10代后半 (15~19岁)
5. 20代前半 (20~24岁)
6. 20代后半 (25~29岁)
7. 30代前半 (30~34岁)
8. 30代后半 (35~39岁)
9. 40代前半 (40~44岁)
10. 40代后半 (45~49岁)
11. 50~59岁
12. 60岁及以上

Q11-1 在这个主谋的集团中、有收集他人信息、看准时机散布谣言的人吗？*

1. 有
2. 没有
3. 不知道

Q11-2 这个散布谣言的人、参与这件事了吗？*

1. 参与了
2. 没参与
3. 没参与这件事 (参与其他的事了)
4. 不知道

Q11-3 散布谣言的人的性别？*

1. 男
2. 女
3. 不知道

Q11-4 散布谣言的人当时的年龄？

1. ~ 6 岁
2. ~ 9 岁

3. 10代前半 (10~14岁)
4. 10代后半 (15~19岁)
5. 20代前半 (20~24岁)
6. 20代后半 (25~29岁)
7. 30代前半 (30~34岁)
8. 30代后半 (35~39岁)
9. 40代前半 (40~44岁)
10. 40代后半 (45~49岁)
11. 50~59岁
12. 60岁及以上

Q12-1 主谋の集团里、有为他们跑腿的人吗? *

1. 有
2. 没有
3. 不知道

Q12-2 那个跑腿的人、参与这件事了吗? *

1. 参与了
2. 没参与
3. 没参与这件事 (参与了其他的)
4. 不知道

Q12-3 跑腿人的性别? *

1. 男
2. 女
3. 不知道

Q12-4 跑腿人当时的年龄? *

1. ~6岁
2. ~9岁
3. 10代前半 (10~14岁)
4. 10代后半 (15~19岁)
5. 20代前半 (20~24岁)
6. 20代后半 (25~29岁)
7. 30代前半 (30~34岁)
8. 30代后半 (35~39岁)
9. 40代前半 (40~44岁)
10. 40代后半 (45~49岁)

11. 50~59岁

12. 60岁及以上

Q13 关于这件事情、在下面的框里、请给予具体的说明。请不要写出具体人名。(例：A和B同谋、跟对很掌握别人流言的C说、「山田（假名）是骗子」。把这个谣言在课外活动小组里散布、山田（假名）被迫辞了小组的活动。等)

Q14 这个主谋的集团、有没有因为某件事、有轮到了恶意中伤的立场、如果有的话、关于这件事、也和这次回答一样、请在一次读取本调查的地址、再次回答。*

1. 有
2. 没有
3. 不知道

单击上面的「送信」、您上面的选项和自由记述的内容将被自动送到研究室专门的邮箱。「リセット」键一般不使用、如用的话、已选的内容将被消去。